明治三十年十月十八日印刷

明治三十年十月二十日發行

婦人衛生雜誌

第九拾五號

私立

大日本婦人衛生會

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第九拾五號
目次

講演

◉實扶的里亞病に就て注意　醫學士 丸茂文良君 演説

◉分娩時の注意產科院設立の必要　高橋辰五郎君 演説

衛生叢談

◉茶と珈琲

◉砂糖醋及植物油

◉素人理料法

◉初生兒の眼膿漏

◉卵

◉赤痢病

◉陰部洗滌法

◉電擊によりて氣絶したるものを蘇生せしむる實際の方法

◉大日本婦人衛生會記事

◉新潟支會記事

◉廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第九拾四號
目次

講演

◉日本婦人に望む數要件　ドクトル 新井古芳君

◉食物調理法　醫學博士 長井長義君

◉赤痢豫防養生法　醫學士 竹中成憲君

衛生叢談

◉疾病の內因

◉咽頭の棘に就て

◉葡蘭垤

◉赤痢病の猖獗

◉赤痢病の徵候及豫防

◉新潟支會記事

◉廣告數件

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第九拾五號

（明治三十年十月二十日發行）

講演

實扶的里亞病に就て注意

醫學士　丸茂文良君演説

私は此會には初めて出席致します、往々他の會よりもなんぞ話をして呉れとの依頼を受くることも有りまするが特に私は此會に出まして自分の考を申上げ、或は御話致したいと云ふ望みを抱いて居りました處、漸くにして其目的を遂して本日御請しの出來るのは大へん自分に取つて喜ばしいことで、且つ名譽の至りに存じます、其理由は婦人の御方に殊に御依頼致さなければならむことが御座います、婦人方に御依頼したき事は世の中に澤山御座いますから、定めて他の方々よりも種々御誂ひが有るに違ひ有りませぬが、私は戰爭後の今日として殊に貴婦人方の御注意を仰ぎたいと云ふのは輙ち爰に掲げました通り、實扶的里亞病に就て世の父母たるものに少しく氣を附けて貰ひたいと云ふことで有ります、このことは少しく餘題に渉りますが。一体國といふものは、各其習慣が有つて千差萬別の有樣であります、我日本の國体は、總てのことが、皆上よりか下に流るゝ傾きが有ります。あるひは國に由つては、中流の人即ち中等社會が源となッて、それより上と下とへ、文明其他總てのことが擴がるところもありまするが、日本は上流の人から下に及ぶのが多い勿論何處の國にもそれは有りませうが、殊に日本は其の傾き

に富んで居ると考へます、一の例を以てまうしますると、政と云ふ字が有ります、政とは民を治むることをまうすのです神様の御祭事に通じます、是れは少しく附會かも知れぬが、極く古に遡りまするど、醫師も政府の役人も、亦神の事を司るものも、殆ど一致のやうな有様で、神に事へるのを以て民を治めた、輙ち政どいへば神に事へると云ふことにある、取りも直さず上から下に及ぼして參つた、是れは輙ち我國の風習となりまして、上の致すことを下が學ぶと云ふことは何事に就ても御座います、或國は、總ての事を中等の人が遣り出して、上方下方に敷衍して往くと云ふ國体も御座います。ソレで日本では何事も上流の人より下の方に擴げて往かなければあらぬと云ふ傾きが有る、又下の人は上の人を仰いで其通りに眞似をし或は則る傾きが有りまする故、貴婦人方の御集會になりまする、當婦人衛生會の如きは、則ち我國體の上から考へましても、尚更に一般の手本となつて貰ひ申さなければ窮るので御座います、故に私が此婦人衛生會に向ひまして各一個人のみあらず、万人にまで龜鑑を出して下されといふのは、極く簡單の言葉で申すと、輙ちソレが、富國強兵の基になりまするので有ります。故に此戰爭後の今日に當つては、殊に充分の御注意あらむ事を望むと云ふことを述べるのには、此會が最も適當て有ると、斯樣に考へまする、我國は御承知の通り、二十七八年戰爭の爲めに人口も大へん荒ひたに相違ない、ソレを克く保護して下さるのも亦貴婦人方、是れ將各個人のみあらす、弘く世の龜鑑となつて保護して下ふると云ふ事は、

則ち又富國强兵の基になるので御座います。モウ一ッ言を換へて申せば、戰死して人間の足りなくなッたのを殖し、尙更其上にも多くして往ッて貰ひたいと云ふ事でございます、日本の全人口は凡そ四千百八十一万三千二百十五人（明治二十七年統計年鑑に據る）是れだけの人口が、年々どれだけ生れて、どれだけ死ぬかと云ふに殆ど東京の人口位は一年間に生れて往く、則ち東京の人口は百二十四万二千二百二十四人、處で一年間の全國出産數は凡そ百二十万八千九百三十三人で御座います、ソレから死にまするのが八十四万〇七百六十八人是れだけ全國の人が年々死亡致します。ソレから東京だけの生死は、人口が百二十四万二千二百二十四人の中で、毎年生まるゝ者が、四万二千四百十八人、死亡數が二万九千九百十三人で有ります、全國死亡者の中傳染病の爲めに死にます。人は、七万八千三百六十九人、此中虎列剌病の爲めに殪るゝものが四万〇百五十四人、又實扶的里亞で死ぬ者が三千〇二十五人、東京だけをいへば一年間に實扶的里亞で死亡する類は二百三十三人で有ります。是れは數で一向面白い事も有りませぬが、兎に角政府で調べた實扶的里亞の全國死亡數は、三千〇二十五人で有ります、けれども此外に屆をしない不明のものも有りますが、ソレは別として公に分ッて居るものは是れだけで有ります。處で此實扶的里亞と云ふものは、何う云ふものに多く來るかと云ふに、大人と雖も此病氣に罹らぬことは有りませぬけれども、大人より主に小兒の方が多い病氣、且つ小兒が實扶的里亞に罹ると大人の罹つたよりも大へんに結果が惡るい、輙ち死

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ぬ數が多いのでございます、此實扶的里亞は傳染病故、一人此病に罹ると、其人一個人に止まらず、棄て丶置くと蔓延して成るたけ多くの人を損じて往くやうに、傳染病の方では致します。同じく傳染病で殪れるにいたしましても、小兒の殪れるのは非常に國の爲めに歎はしい事で有ります。先づ外國の人が他の國に參れば、其國の文明教育强弱貧富の程度を視るに違ひありませぬが、學者が第一に眼を着けるのは、人間の年齡の少いもの丶數に眼を着けるので御座います、大學者デあッたり、大豪傑であつた處か、其者而已に眼を着けると云ふことは割合に少ないに違ひない、總て國民と云ふものは形体にたとへば圓錐形に往かなければならぬので有ります、輙ち年の少ないものは最も多く、年齡の多くなるに從つて漸々に人數が減して往なければならむ、さうすると其國は大へんに安心で有ります、併しながら是れを逆しまにして、年齡の老けた者が多く、少い者が少ないと其國は必ず轉覆して倒れて仕舞ひます、今日本は二十七年の調査に據れば、百九歲まで生きたものは一人、百八歲の者が二人、百七歲の人が三人有ります、爾ふ云ふ樣に年を取つた者が大へんに少なく是れに反して一年未滿の者は百八万二千三百六十三人有ります。一年未滿の者と、百九歲までの比較が斯くの如くで、今我邦は一年未滿の者を百万人以上抑へて居る、其人々が成長して是れから我々の後を繼いで往く者で有ります、將來の日本國を維持して往くのは此百万人の一年未滿のもので有ります。それ故此小兒は實に非常に貴い、其小兒に最も危險なる病氣即ち實扶的里亞……

勿論尙ほ他にも危險ある病氣はいくらも有りますが、實扶的里亞は小兒の傳染病の中で最も危險で有ります、其數は傳染病統計では僅かに十分の一位で有りますか、併し例之は虎列刺病の如きは大人が其數の大部分を占めて居る、然るに實扶的里亞は小兒の方に多い、寧ろ小兒に限るといつても宜い、大人でも、必ず死ぬことは無いとはいはれないが、我々の實驗では、大人の實扶的里亞で死ぬと云ふことは甚だ稀に聞く位で有ります。それで有りますから有らゆる傳染病の數の十分の一たけ小兒が實扶的里亞に冒されて死ぬと云ふのは寧ろ大へんに數が多いのでございます、それ故に此實扶的里亞と云ふ病氣は決して忽にしてはならないそれで、或は貴婦人方は每々御聽きになつたことも有りますか知れませぬが實扶的里亞はそれあら如何なる病氣かといふに、俗間では馬痺風と申します、新たに日本に始まつたものでは有りませぬ、又西洋でも新たに發見したのでは有りませぬ。西洋では餘程大古から此病氣のあることを知つて居た、日本にも古くからあつたのを知らなかつたかもしれない、又西洋でも今から凡そ二千五百年前に稍詳しい事を書いた書物が有ります。「ヒポクラテス」は基督の生まるゝより凡そ四百六十年ばかり前の人で有るが實扶的里亞の事を書きました、又其人より前に、印度の醫師が此實扶的里亞の事を言つたといふことが書いてあります、ソレ故此實扶的里亞は新たに出來た病氣といふのでは無いので有ります、先づ凡そどういふ病氣であるかと云ふに、主に咽喉が腫れます、昔は之を「咽喉腐」れなどゝいつた、而して腫れた處に穢な

い皮が出來ます、而して病氣の性質は急性でございます、其爲めに食物を取ることが出來ませぬ、或は甚だ激しくなると呼吸も出來なくなつて、それから毒がからだ中に環つて遂に死んで仕舞と云ふ樣な病氣で有ります。其病勢の急なるは、極く早いのは二三日位に死んで仕舞ひます、或は一週二週と繼續することも御座います、尚は醫治上に就て謂ふことは澤山有りますが、其事は茲には不必要故申しませぬ。簡單に前の語を反覆すと、實扶的里亞は咽喉に白い皮が出來、熱が出まして呼吸が困難になり食物を嚥下することが出來なくなつて殪れるといふのでございます。

其病氣の注意はどういう事をすれば宜いかと云ふに、是れからが、貴婦人方に御依賴をして置くことで御座います。先づ此傳染病に就ては、傳染病規則だとか、種々やかましい事が有りますけれども、殊に貴婦人方に御依賴申して置く事は、成るたけ手の懸らない容易く出來ることでなければ往けない、簡單に申しまするど、小兒は主に母親の掌に餘計附きたがる、ソレ故父母と申しても專ら母に氣を附けて貰いたい、其事は唯一ッ、則ち小兒の咽喉を折々氣を附けて見て下さい………と只此一事です、或は素人が小兒の咽喉を見た處が、醫師で無くては解らぬと謂ひますが、ソレはどむづかしい事ではない。さればどういふことを見たら宜いかと云ふに、兎に角小兒が泣きまするとか、笑ひまするとか、大きな口を開くとかいふ場合には、始終氣に懸けて、咽喉をよく注意して見るので御座います。而して咽喉の奥に白い點なり、或は白い皮の樣なものが有ッたら忽せにして

はなりませぬ、普通の咽喉は桃色をなして居りますが、實扶的里亞のあるときは、丁度譬へて申せば乳滓のやうなものが咽喉に附着て居ります、勿論咽喉を見る見ないに拘らず、熱が有れば醫師の診察を乞ふべきは通例でございますが、先ヅ咽喉に氣を附けて白い皮が附着て居ッたら、其白いものは必ず實扶的里亞であるとは斷言されませぬが、とにかく醫師の斷定を受けるのが必要です。縱へ實扶的里亞であるにしても、極く初め白いものが出來た時なれば、どうでも治療は出來まする、殊に今日の如く血清療法も出來ましたれば、治療はどうでもなります、ソレが一歩遲れると毒が蔓延して咽喉の奧或は鼻の裏等に何處となくひろがつて往く、我々の呼吸をしまするのは丁度煙草の煙が煙管を傳つて來ると同じに、空氣は咽喉から氣管を通つて肺臟に入ります、然るに脂が溜ると煙管がつまつて煙が通らないと同じ様に、實扶的里亞の毒の爲めに空氣の通路を塞げられて、息をすることが出來なくなります、呼吸をすることの出來なくなるのは、丁度手拭で首を縊つて死なすと全く同じで御座います、又此毒が身體中に吸收されると、所謂からだ中毒になつて仕舞ひます、而して小便を見れば身體組織の主なる要素たる蛋白が皆出て仕舞う、或は脈の本源たる心臟を痲痺さして死に至らしむると云ふやうな事で啻に息を止めるばかりでなく、からだ中の病氣になつて、遂に命を絶るやうなことになるのですか、僅かに白い物が附着た位の時直ぐに醫師の處に往つて、實扶的里亞か否かを見て貰つて、其診斷に因つて適宜の所置をすれば死ぬるのを助け

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ることが出來るので御座います。則ち貴婦人方に御願ひと云ふのは、なんにもむづかしいことではない、只咽喉によく氣附けて貰ひたいのです、場合に由ッては指を入れて見ても宜い、とにかく乳滓みたやうなものが咽喉に附いたら油斷がならぬ、最も危險の事で有ります。それで有りまするからして大學御雇の「ベルツ」氏の著はした書物にも勿論西洋の書にも謂ふてでございますが、幼少い中から小兒に、咽喉を見せることを敎へて、其小兒が病氣の時に醫師に咽喉を見せるのを嫌がらない習慣をつけるは賢母だと謂ふてありました。言葉を換ゑて申すと、小兒が咽喉を容易く見せるやうにするのは賢母であると云ふ意味です、又西洋の醫書には醫師が小兒の病を見たら咽喉を見ることを怠つてはならぬといふ様な事がいつて有ります、即ち咽喉を見ることが第一の注意で有りますなほ深い事は醫師の職掌に讓ります。

第二には既に實扶的里亞となつて仕舞つてからの注意を願ひたいので御座います、細かく言ふと澤山有りますが、細かい事は、醫師が診察した上で、相當の處置を致しますから、貴婦人方には主なる個條を御依賴して置きます。則ち第二の注意と申すは、小兒を醫師の處に連れて往つた時分には全く小兒を醫師に打任して仕舞う、即ち醫師の處置に打任すと云ふことを御依賴する、併せて出來得るならば此際は兩親共に小兒を連れて醫師の處に往くことを望みます。と云ふものはどう云ふ譯であるかと云ふに抑々實扶的里亞と云ふものは病勢が急激なものの故、醫師の方でも治療上急激の處置をしなければならぬ、輕症なるは注射とか藥を附

けて病毒を燒き取るとか云ふやうな事をすれば宜いが少しても病勢が重いと已むを得ず、咽喉部を切開して管を挿入して呼吸を保たせ、其間に療治を施す、或は眼で見ゆる部分の、病毒に冒されたるときは、燒火箸を推し附ける樣なことを致します、無論極く細い針で致しなければありませぬ。總て醫師の療治は何病氣に對しても約すると三通り有ります即ち藥、小刀、火、藥を與へて治らなければ切る、それて往けなければ燒くと此三ッて有りまして、醫師で無い者が見ると、殘酷極まるやうな事をしなければならない。其場合に妻君ばかりであると大へんに躊躇する、家に歸つて良人と相談をした上てなければ自分の勝手にすることは出來ないなとゝ云つて、家に歸つて相談が濟んで、然らば施術を御依賴すると云ふ樣なのは、手術場に往くと其儘殪れるものが有ります。或は良人が遠方に居るのをやう／＼探して、探ね當てた時分には事もなく殪れるやうな例がいくらも有ります。ソレ故出來得るならば兩親共に醫師の處に往くか若くは妻君一人でも宜いが、全權を委ねて其小兒の事は妻君の意見を以て醫師に即座に諾否を答へ得らるゝやうに、初めから相談をして置くが宜い、他の病氣のやうな悠然と治療をして居ることは出來ませぬ。

第三實扶的里亞患者は、自宅で療治する方が宜いか、或は病院が宜いかといへは、無論病院の方が宜い、デ第三の注意といふは、他に傳染をさせぬ樣にして御貰ひ申さなければならない、方法は如何にといふに、此事は一言を以て終つて宜い、輙ち隔離法、患者を隔離して他の者に傳染しない樣に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

いゝして遣ると云ふ事が一番大切で御座います。

第四には親母自身も氣を附けなければならない、隨分豫防を不完全にしますると、母親が媒介になつて他の小兒等にうつすやうなことが往々有ります、斯ういふ風でありまするに因つて、種々御依賴申し置く事は澤山御座いますが其他は述べませぬ。

先づ總括て申しますると、輙ち注意して咽喉を見る事、醫師を信用して決斷する事、患者は隔離すべき事、母親自身も豫防法を怠らざる事、是れだけです、未だ御依賴したい事はいろ〳〵有りますが、あまりむづかしい事はさし置きます、是れだけの御依賴で有りますから、敢てむつかしい事はなからうと思ひます、ソコで近來はどう云ふ工合かといふに、明治二十六七年頃迄殆ど患者の半分位死んだが、近來は死ぬ者の數が尠なくなりました。北里君の報告に、三百五十三人の患者の中死亡者三十一人、則ち百人中九一、二は平癒する割合です、又私の成蹟は外來或は往診したのは別として、病院に入院して自分が親しく手を下したのは、如何なる危篤の實扶的里亞患者でも、患者に理由を述べて治療する事にしましたが、百人の中治療が屆かないで殪れたのは十二人程でありました、併し此中にはいろ〳〵の小譯も有りますが先づ一般にまうすと私の實驗はその通り、却ッて今年の實扶的里亞患者は多少死數が多くも將に治療を受けんとして手術臺に載せたばかり、死ぬのも有り、又實扶的里亞に罹ッて來てから三四時間の中に死ぬのもあり、若くは二十四時間經たないで死ぬのも有ります。ソレから此實扶的里亞

の治療に就て咽喉に孔を開けるのを、醫師の方では氣管切開術と申します、併ながら今日は氣管切開と、血清療法とを併せて致しますると大へん結果が好い、兩方併せて治療したものは本年一人も死にませぬ、氣管切開だけで死んだのは四人、併し氣管切開たけで療つた患者も四五人有ります、此寫眞は(一葉の寫眞を示さる)氣管切開而已をして癒つて後寫したのでありますが、さほど恐ろしい疵にはならない、而して此小兒は今日も健康で生存して居りまする、無論是れは血清療法などは無い時代の事で御座います。さて此實扶的里亞はそも〳〵何であるかと云ふに、一種の恐るべき黴菌、或は極めて小さき蟲ともいふべきもので御座います、是れは傳染病研究所に居ります中川さんと云ふ人が、實扶的里亞の黴菌を百倍にしたものを寫眞に取つたので有ります、是れは元歐羅巴の「フランケル」と云ふ人が、千倍若くは五百倍にして顯わしましたノデ圖にある如く小さきものですらなほ且つ千倍五百倍と云ふのでありますから、其實物は到底肉眼を以て觀る能はざる微細なるもので有ります。(實扶的里亞黴菌寫眞を示さる)で餘り長くなりますから簡單に申して終を告げます、どうか前申した三ケ條の事を御忘れにならぬやうに御注意を願ひます、是れで今日は御免を蒙ります。

新潟支會講演

◎分娩時の注意及産科院設立の必要

高橋辰五郎君講演

予は九月發行の婦人衛生會雜誌によりて新井古芳

氏の産科院設立の必要を説きたる演説筆記を見るに其説頗る予の所見と合するものあるを以て本日は此事に就き一言せん

新井氏は産科院を設け産婦を入院せしむることとせば安全に出産せしむることを得且事故ある私生兒の如きも平穏に處置するを得て結局多數の國民を養成し得る旨を論せり予も當地に産婆學校設立の必要を感し專ら縣廳其他當局の人に就て其急要なる所以を説き殆と其成立を見んとするに際し縣下各地に水災あり爲めに縣費二百三十九万圓の多額を要する場合に至りしを以て本年縣下の新事業は一切見合せの事となり産婆學校設立論も亦勢中止の姿となりしが同學校若し成立せば自ら産科院を其附屬として併置することを得可く貧困者には無料にて入院せしむるも容易なる可く又分娩中は屢他の疾病を惹起すことあり之れを豫防せんとせば先づ熟練ある産婆に依賴するの必要あり他の疾病あらば或は一二日も猶豫することを得可きも獨り産のみ此一刻にても手後れとあれは産婦の生命に影響す可きにより豫しめ産科醫を招聘するを緊要なりとす今分娩中に注意す可きものを舉けんに第一は胎兒の位置を知ること是れなり即ち頭部より出つるか臀部より出るかを見定むることは時により頗る難き事あれば經驗を積まざる産婆等は屢之れが見誤ることあり胎位の如何は最も心得置くべきことなりとす第二は陣痛微弱即ち産時腹の痛むこと不足なることなり是れ亦當初に於て處置宜しきを失はゞ發熱等の爲めに産婦の生命を危くす可し第三には出血にして多く血の下る時は死に至るか若くは産后甚だしく衰弱す可し故

に大に細心注意して之を防ぐを必要なりとす第四には損傷にして兎角分娩の際には傷の出來るものあれば其場合に於て手早く療治せずんば出血するか或は膿を釀すとある可し第五は發熱なり是れは分娩時に不潔の取扱をなすに起因するものなるが其最も重きものを產褥熱と名け極めて危險なるものなり日本には產褥熱稀少にして凡そ西洋の十三分の一なりと醫學士古川榮氏は調査を爲せしも實際如斯少なきには非ずして現に余の如きは當市に於て常に其多數なるを實驗せり彼の產後下腹緊痛し腰部脚部等冷ゆるなどの症狀を訴ふるは多くは產褥熱の輕き病後に發するなり以上說明せしものゝ中此產後の發熱は最も危險のものなるを以て特に注意し分娩時に不潔の取扱をなす可らす第六には小兒の死亡なり元來日本にては出產當時に屆出を爲さず死亡するに及びて止むなく死產兒として屆出つる弊あれは割合に統計上死產兒數の多かる可きも先つ統計に徵するに日本全國中第一に多きは千葉縣にして生兒百人に就き死產兒卅、三人の割合となり概して日本全國を平均するに凡そ百人に對する十人の割合となり居れり若し產婆術發達せば少なくとも右の半數を救ひ得可きなり而して之れを豫防せんとせは即ち熟練せる產婆の外分娩時には醫師を招聘せざる可らず產科院は即ち是等に對する極めて適當のものにして假令資產を有して充分に產婆醫師等を招くを得可きものと雖も產科院の如く凡てのものも完備すると能はす分娩中には熱及出血の豫防を最も緊要となすと雖も同一にして何れの病院にても其手術室は極めて清潔にして且明快なる所を撰ぶは一に患者をし

て發熱せしめざるが爲めなり產室も亦如斯くにして床板天井若くは壁間等は塵芥の附着し存する事なき樣に爲し床の如きは板なるときは其隙間に必ず不潔物を含むを免れず故にセメントにてたヽきとなすを良とす然れども如何なる資產ある家にても平時には不用なる產室をば特に設け置く如きは事實に於て行ふ可らざる事なれば止を得ず產婆醫師等に於て出來得る丈け其居室を淸潔にするも幸に難產あらずんば兎も角若し難產なる塲台とならば產室不完全の爲め發熱せずと保證し能はず而して產科院は豫め其爲めに特に設けある產室なれば斷じて之れ等の爲めに發熱するの恐れなし隨て母子の生命を安全ならしむるとを得可ければ產科院設立の必要なるは予の固く信ずる所なりとす豫め一言して后來產婆學校附屬產科院の設立を見るに至らば貴婦人方の御賛成を賜はらんとを望む

（澤田とも子寄送）

衛生叢談

◎茶と珈琲

茶は元來日本及び支那に產し昔時は外國に於て稀れに見る所のものなりしが方今は印度、亞米利加の南部、及び南北カロリナ――等に產出せらるヽに至りたり之は世人の能く知るが如く茶樹の葉を焙乾したるものにして飮料品なり而して黑茶、紅茶、綠茶等の別ありて日本に於ては多く綠茶を用ひ西洋に於ては紅茶の需用多しとす是種類の異なるは皆製法の異なると產出する土地の異なるに因り隨て其香味も自ら差別あり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

珈琲は原アラビア及びアビシニアに生じたる珈琲草の豆なれども目今に至りては熱帶諸國に培養するに至れり

茶と珈琲の主成分は略同一のものにして茶にテインと云ひ珈琲にカフェーンと稱し其他乾酪質、糖分、單寧、(澁き味を與ふるもの)澱粉、脂肪、芳香油、鑛物質及水等を含み其量は兩者に於て同一に非ざるものとす然れども其効力に至りては兩者相類似したるものにして之れを適度に飲用すれば精神を爽快興奮ならしむると雖ども常に多量に用ふれば身神を害することあるべし老人の夜間良さ茶を喫し睡眠せられざるは茶のテインの腦を刺擊し興奮狀態に陷らしむるが爲めなり煎りたる珈琲浸出液は身体組織の消耗を防ぐの能ありとて某學者は實驗をなしたり乃ち次の如し珈琲を用ひざる時と同一なる食物を取りたる后ち煎りたる、珈琲一オンスの四分の三を二週間連服して之れを其以前に比較したるに尿中に排泄せらるゝ物質(尿素、燐酸)の量三分の一を減せりと云ふ又珈琲中に含有せらるゝテインは神經系統を刺戟して蒸發氣を增加し食慾を亢進し內臟の諸機能を興奮すと云ふ某氏は之れに反して曰く茶と珈琲は有力なる呼吸器の衝動物にして炭酸の呼出量を增進す就中茶は皮膚の作用を亢進するの力頗る大にして蒸發氣を催進し血液の運行力を減し身體を爽涼ならしめ而して粘膜の充血を誘起することなし珈琲は之れに反して皮膚の機能を減し蒸發氣を抑止し皮膚をして乾燥ならしめ肌熱の消耗を減ず而して內臟の機能、心臟の縮張、脈管の血行を亢進し粘膜を衝動す故に珈琲を用ふるは茶を用ふるの主

道と異ならざるべからず例へば珈琲を用ふるの目的は滋養不足の者又は虛弱の者にありて之れを茶に比すれば頗る裨益あり又朝發の時殊に皮膚の作用亢進し心臟の機能尫弱なる時に用ふるを良とす但し強壯にして適當の食物を食るものは午餐後は須要ならざれとも之れを用ひんと欲せば食後直ちに飲用するを佳とす

茶と珈琲は恰も酒類と鼎足をなしたる飲料にして吾人の嗜好する所のものにして茶と珈琲に於て貴ぶ所のものは之れを生涯飲用するも酒類の如く甚しき害を身体に將來することなく又滋養物と云ふべきものに非ざれとも之れに牛乳或は砂糖を加へて用ふるときは大に人身營養の補助をなすものなり茶と珈琲を飲用せんとするには決して煮沸するなかれ之れ芳香分を散失し且つエキス分を溶解するが爲めに苦味を生ずればなり單に溫湯を加へ浸出を待ちて后ち之れを喫すべし醫家の治療上に良茶を用ふるあるは其効力あるを以てなり

茶の贋造は他の植物葉を以て之れに混ずるもの多し例へは水楊、接骨木、山毛欅、桑等の葉を以てすと云ふ然れとも之れを水に潤わしめ翻展して視んば容易く鑑別するを得べし其他有毒の色素を以て葉を染め又は既に浸出したる茶葉を再び製せしものありと云ふ

珈琲の贋造は種々ありと雖とも其有毒危害あるものは甚だ稀にして多くは小麥、裸麥、豌豆、橡栗等を用ふると云ふ方今市中に販賣するものは多くは狐豆と稱するものを以てし眞の珈琲を用ふるもの尠なしと云ふ

◉砂糖醋及植物油

砂糖は萬國に於て大抵之れを用ひざるの國なく隨て多額の需用する所のものなり而して其人體に於ける作用は澱粉と同しく脂肪を造り體溫を生するものにして欠くへからさる食物なり寒國の人民は常に溫熱地方の人民に比すれは砂糖を用ふると夥多なり是れ其性分の專ら脂肪を生じ體溫を增すの効力あるが故に知らず識らず自然の理により慣習とあるを知るべし砂糖の種類製造は種々ありと雖も中に就て重なるものを大別すれは蔗糖、葡萄糖乳糖の三種にして化學性分は皆な同一なりと雖とも其甘味の厚薄は各々差あり而して通常多く用ふる所のものは甘蔗及楓より之れを製取す又支那地方に於ては大麥の一種又は無花菓より製するとあり英國に於ては大麥、胡蘿蔔及ひボートルミルク等種々ノ物質より之を製取することあり然れ共甘蔗及ひ楓より製するもの十中の七八に在りとす

蔗糖の贋造に澱粉、菓糖及ひ葡萄糖を混するものあり右の贋造は素より有害の物質にあらすと雖とも其甘味を減少するものあり又其重量を增さんか爲めに砂及ひ水を加ふるともあり澱粉を混するものは之れに沃度溶液を滴する時は紫色を呈するを以て容易く試驗し得べし砂を混するものは之を水に溶解すれは砂石の沈下するを以て知るべし又下等不潔の砂糖中には稀れに鉄分を混するとあり斯の如き砂糖は之を茶の浸出液に溶解する時は即ち茶の一性分たる單寧によりて忽ち黑色に變するを以て容易く知るを得べし而して砂糖を禁ずべき疾病あり次に述べん

其疾病を蜜尿病とす此疾患は尿中に糖分の排泄せらるゝものにして一時性のものと繼續性のもの

とあり一時性のものは中毒の時、二三の流行病に罹りたるとき、脳を強く振盪したるとき、脳出血、癲癇等の場合に起り永く續かざるものあり繼續性のものは其原因未た不明にして學者の經驗によれば多分遺傳性のものなるが如し例へば父母の中に神經病に罹りたるものあらば其子に之れを發することあり而して伊太利、印度等に多く幸に我邦には多からずと云ふ輕症あれば別に障害を呈せざるも重症に於ては漸次痩削に陥り心氣憂鬱渇氣を起し饑餓の感を訴たへ便秘を發す婦女子は陰部に烈しき痒感を覺ゆる等なり其療法は醫師に依托すべき患者並に看護者の心得べきことは砂糖を與へざることと精神安靜の二事なり而して成るべく肉類を與へ折々少量の糖分を加ふへし蔬菜（芹、莢豌豆、百合根、苣、菾葉、菠薐草等は）可なり然れ共大根、蕪、甘藷、豆類、麩等は與ふるなかれ赤葡萄酒は其少量を許すべし然し甘き葡萄酒は禁ず皮膚を冷水にて摩擦することと坐湯は良し之れを要するに糖分過多の食物を減ずるにありとす

酢は歐米諸國に於て副食物とあして用ふるものにして大抵糖分を含む所の物質より製す即ち葡萄、葡萄酒、菓實、麥酒、麥芽、砂糖等是なり就中麥芽より資るものの最も多し然れども酢の最上なるものは葡萄及び橙實より製するものなり、又木酢も清淨無色にして腐敗することと少なく更に良好のものと云ふべし通常用ふる所の酢は百分中五分の酸を含み異重は一〇九一りなど雖とも亦實質上の酢は之れより弱きものの多しとす蓋し酢は之を食物に加へて能く味神經を衝動するものにして何れの國を問はす日常胡椒、芥子、塩、醬油、等と同しく種々

の食物に添加し又動物、野菜類を漬け之れを保貯するの便に供す然れ共胡瓜、茄子等を貯ふるに其色質を保有せしめんが爲めに銅片又は酸化銅を投入するものあり右等の所爲は健康を害するものなれは注意せざるべからず又其酸分を強からしめんが爲め鑛屬酸及び有機酸を混和し或は腐敗したる酢を混ずるものあり就中最も有害なる僞製は硫酸、鹽酸、硝酸を混したるものとす殊に注意せざるべからず又不正のものにあらざるも其貯藏の不注意より大害を招くことあり人々必ず常に心得置くべきとなり凡そ酢を貯ふるには磁瓶、硝子壜又は内面を燒黑したる樽等をよろしとす土製、鑛屬製の器物は決して之れを用ふべからず
本邦に於ては未だ種々の物質より製造するを聞かず從來專ら資用する所の物質は單に米のみにして最初米を麹母となし夫れより泡釀して製すること造酒と大同小異なるものなり但し其製造精良ならざるが故に常に腐敗し易く且黴を生ずるもの多けれは能く注意すること肝要なり植物油も亦食物となし日常需用する所のもの少なからず今其種類を擧ぐれば橄欖油類、茄子油、胡桃油、落花生油、榛實油、椰子油等あり而して以上の植物油類中橄欖油は最も消化し易く其味淡薄にして一種の香氣を有し最上位のものなり
日本に於て從來食用に供するものは胡麻油と菜種油とのみなりしが方今は北海道等の地方に於て落花生油を製するに至れり元來植物油の多數は大抵種の細小なる種子より使用するものにて前に掲ぐるもの丶他綿實、芥子、亞麻子、蕪菁子等總て良好の油を得べきものあり殊に胡瓜子より搾取すると

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

きは最も美味を有したる食油を得べし――スラヴの海岸に於て生產する所の大ある胡瓜子の油は其香味に富みて之れを上等の橄欖油に比するも逈かに優れりと云ふ又向日葵の種子には百分中に油四十分の多量を含有す是亦食用に供すべし總て植物の種子は皆多少の油分を含有するものなれば其無害なるものを撰擇して食用の油類に資用せば實に種植物の種子は吾人營養の府庫と云ふも亦可なるべし

通常油の贋製は廉價の油を以て高價の油に混合し又全く下等の油を以て詐はり其虛價を貪るものにして人身に有害なるにあらず然れとも亦衛生上注意すへきこと種々あり即ち變敗したる油を良質に復せんか爲め姦商輩に於て往々酸化鉛を用ひ腐敗せし油を精製したるものあり蓋し酸化鉛を用ふる時は頗る透明淸白となりて更に甘味を與ふるを以てなり又貯藏器に不注意あるか爲め鑛屬毒を含むものあり故に歐州衛生官吏は時々化學上の試驗を施して之を監視すると云ふ我邦に於ては油の貯藏には總て紙にて裏面を張りたる樽を用ふると雖とも通常油商の店頭に陳列して小賣に使用する油の貯器には多くは銅板を以て樽の上緣を裝飾するものあり夫れ銅は油に逢ふて容易く酸化するものなれば之を食物の調理に供して其有害なるは固より言を俟たず右等の弊害ヲ匡正するは衛生上緊要のことなりとす

◉素人料理法

先日某所にてきゝまして藥學の丹波先生に御目に懸りました其時先生の言はるゝに彼れが衛生是れが衛生と申すも人は一日に三度食事をなすから第一

番に氣を付くる所は食物で之れの調理法の善惡によりて甘きものも無味となり軟きものも硬くなり消化し易きものも不消化となるものだから來月の雜誌より折々食物の調理へ様を其道に慣れたる人に聽き記載して呉れとの御依賴であります小生も其事は豫て心中に考へて居りましたが此頃出版になります食物調理法は大抵混雜なる法多く會席だの中酒だのと割烹店の料理人でなくんば出來ぬ事で素人には困難でありますから役には立ちません小生の所望は誰れにも出來る法で日常魚屋八百屋の持參する品物にて間に逢ふ事ばかりを宮内省の大膳部に出勤する老人より聽きとりましたから漸々と記します

食物は御承知の通り四季折々にて異なるものでありますから春は春の見立とか夏は夏の見立とか其使用致しまする物品にも自然差を生ずるものでありますから小生も今丁度秋に當りて居ります故に秋の物品にて調達せらるゝものを申します

◎松茸の餡かけ

松茸と豆腐を能き程に切り湯でゝ二品を揚け碗に盛り餡を掛け芥子の搔きたるものか生姜のすりたるものか又は葵のすりたるもの等を附す

◎松茸の炮烙蒸

松茸を二ッわり（大なるものは三枚になす）になし炮烙を白紙にて能く拭ひ食塩を振り其上に松茸を並らべ他の炮烙にて之れを被ひ火上に載せ又上の炮烙の上に火を置き凡そ十分間にて食するをうべし

◎鰯の南蠻煮

葱を五分或は一寸位に切り底に敷き其上に鰯を幷

へて煮る味は酒醬油と砂糖にて着くへし

◎焼松茸

松茸を濡紙にて包み之れを灰の中に埋め蒸焼となし之れを裂きて醬油にすり生姜を加へ付けて食す

◎鮎の魚田

鮎の全身のまゝ大なるものは一尾ッゝ小なる者は四五尾ッゝ串に横ざしとなし先づ素焼にし後ち味噌を多く塗り付けて又炙るべし味噌の拵ひ方は味噌をよく摺り合し美淋又は砂糖を加へ柔くとき置くべし

◎蒲鉾

蒲鉾の付けやきは三四分位に切り醬油の付けやきとなす又焼てウニを塗るも美味なり

◎栗の經飩

栗を湯で丶皮を剝き塩と砂糖とにて味を付け之れを摺鉢にて摺り潰して餡の如くなすべし又これに味付けたる丸粒の栗を交ぜ合へるなり

◎麹漬

麹三枚に美淋一升を掛けねかし置き干瓜、鹽押茄子或は干大根、紫蘇の實等を細く刻み漬込み置くべし

◎初生兒の眼膿漏

初生兒とは何は臍帶の殘留するものか又は臍傷の未だ全く瘢痕を成すに至らざるもの即ち母体との關係の跡を止むる小兒を云ふ通常臍帶の脫落するは分娩後五日目頃なり而して臍傷の瘢痕をなすは十日目以上を費やさゞるべからず此期に於て諸種の疾患に罹り易き故殊に注意すべきは眼膿漏となす

生れて第二日に至り時として眼瞼の輕微なる腫脹

及び潮紅並に僅少の膿を排泄す此症增進する時は甚しく赤き眼瞼は膿に因て粘着し時としては水膨狀とあり其中間より膿を湧出せしむ此症の原因は多く胎兒の產道を通過するに當て淋疾を患ふる母の淋毒の眼中に侵入するにあり又屢々不潔なる乳母より傳染することあきにあらず輕症のものは一二週重症のものは六七週にして適當の療法を施せば治すべし然らざれば失明に陷る危險の疾病なりとす故に淋疾に罹れる產婦は分娩前に於て膣の豫防的洗滌を施さゞるべからず

◎初生兒の便秘と下痢

初生兒のうち殊更母乳なく人工にて養育せらるゝ小兒は消化障害を起しまするこことと甚だ多く爲めに小兒は不穩となりましてよく号泣ます然しよく号泣まするは饑餓の爲めと考へ矢鱈に乳を與へまするは反つて病を重くする樣なものであります故によく／＼注意しますれば自然判ります便秘は每日の排泄の數を減じます例へば一日に三四回ありましたるものが一回となり又は排泄が硬固となりますから判ります小兒の腹部は緊る時に疼痛がありますから屢々号泣ます

牛乳で養ふものには先づ乳汁を檢査して其購買所を換へて見るべし而して尚ほ良結果なければ兒醫に依賴すべし

便秘よりも危險あるは下痢であります殊に夏期に於ては下痢の爲め死にまする小兒が甚だ多くあります下痢は凡て他の疾患併に肺炎よりは第一年に於て最も死亡を來たすものでありまして人工に養はれます小兒には殊に多くあります

便通は頻數となり稀薄にして綠色を呈します縱令

ひ初め普通の黄色を帶びておりまするも暫く便器に放置しますれば綠色となり且つ甚しく酸臭を放ちます其性は皮膚を腐蝕しますから小兒の大腿陰部等に濕爛を來たし速かに体力や体重を減らします若し嘔吐か加はり來ますれば衰弱が速でおります

幸に疾患が治りますれば体重の増加も亦迅速であり一週以内に余程增します

療法は主に攝取せる營養物の性狀を撿するとが一番であります故に豫防法には殺菌したる牛乳を用ひまするか又は之れを行なふことがなければ每回少量のアルカリを加ふるとが宜しくありますその跡は醫師に御任せあるべし

◎卵

家禽の卵は刺戟性なく人體に要用なる諸性分より成立せる營養物なり而して蛋黄及び蛋白共に之を分たず混同して食するは營養上及び經濟上に於ても素より恰適なれとも蛋黄は殊に消化し易きが故に病者或は胃弱の者は之れのみを食するを良とす然れとも煮熟したる卵は憶想の如く消化し易きものにあらず恰も羊肉の消化時間即ち三四時間を費すものあり總て卵を食するには之れを煮るも半熟なるを良とす若し之れを高度の熱にて煮て蛋白分全く凝固するときは消化し易からず生卵は十分煮熟したるものに比すれは消化易きものなれとも慣習なき人は之を嫌ふもの多きが故に半熟に調理するの宜しきに如かず

卵の脂肪は專ら蛋黄中に包有して蛋白には含むことなし故に之を煮熟するに蛋白は凝固すれとも蛋黄は否らず又卵の全量性分の比例は頗る含窒素物

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に富みて含炭素物に乏し其脂肪を澱粉に改算すれは含窒素物一に就て含炭素物一七五の對稱なり故に卵の滋養を資るには之れを單食せすして脂肪多き豚肉又はボートル油類及澱粉類と混食するを最も良とす

新鮮なる卵は其大なる一端を舌に接するに寒冷なるべく之れを握して日光に向ひ窺ふに半透明なるべし又之を立て側面より透見すれは其中央透明なり若し腐敗したる卵なる時は其頂上透明にして中心は不透明なるものあり又水十分と塩一分との溶液に投する時は新鮮なる卵は沈み陳腐なるものは浮むものなり

凡そ卵は腐敗し易くして永く之を貯畜し難きものなるか故に成べく其日を經ざるものを食するを良とす總て卵の腐敗を來たす所以の者は殻の氣孔より水分蒸發して內に空隙を生じ外氣之に乘して浸入し其欠處を充盈するか爲めなり故に之か豫防の法は務めて殻の氣孔を蔽塞するの目的を以てせさるへからす乃ち乾燥して清潔なる食塩の箱或は桶の類に盛り卵の尖端を下方に向けて埋沒せしめ之を冷暗にして且乾燥したる場所に貯藏すへし又塩に換ふるに石灰を以てするヿあり或は石灰水又は食塩水中に保貯するヿあり又ワニス澱粉、糊等を以て卵の外面を塗るの法あり是皆歐州商賈の專ら撰用する所にして最も完善の法となす若し腐敗に傾きたるものを用ふるヿあるときは煮熟するよりは寧ろ燒きて食するを良とす歐州に於ては甚たしく腐敗せさる卵を腸詰に用ふるヿ稀に之れあり而して其臭味は調和の爲めに蔽はれ善良の卵にて製したるものと鑑識し易からすと云ふ我國に於ても下

等の菓子又は鮓飯等に用ふることあり何れも健康上に於て大害なきものと雖とも衛生家に於ては注意すへきことなり我國内僻陬の地にありては鳥獸魚卵共に之を缺き稀れに下等陳敗に傾きたる乾魚醃魚を遠く沿海の郷に求めて之を無上の珍味佳肴となすか如き住民の滋養食餌に不自由ある村落尠しとせす斯の如き地方に於ては豚、鷄、家鴨の類を畜養するを緊要のこととす就中卵を得るの目的に對して鷄を飼ふは家鴨を養ふの利益多きに如かす家鴨は卵を生すること多くして且大なり而して其固形物及ひ油分の多きこと之れを鷄卵に比すれは亦四分の一を超過す故に營養上に於けるも經濟上に於けるも共に家鴨を養ふの勝れるに如かさる所以なり

下痢を起し易き人は漫りに生卵子を食用に供するなかれ半熟は下痢を催すこと極めて稀なり又煮卵子は不消化にしく胃を害することあり

◉赤痢病

赤痢病は大腸を未定の病因が侵す疾患にして流行性に傳播するものなり東印度、錫蘭、ジャバ伊太利等には流行することあれ共歐州には流行性に來ること少なし千八百七十年に普佛戰爭の際兩國の兵士等大に之れを患へたりしも其病原は佛國なるアルセリアにありて是處より傳染したるものとす

我國に於て此疾患比較的多く以前四國、九州、中國に流行したることあり近頃岐阜、神奈川、栃木、新潟の諸縣に傳播し病勢甚た猖獗を極む而して其流行時は多く夏期より秋期に亘り八九十月頃にありとす冬期に於ては全く消滅するものあり

此疾病は直接に人より人に傳染することなく其媒介者は即ち大便なり故にコレラ及ひ窒扶斯と全し

而して一度此疾病に侵さるゝときは屢々之れに罹るべき傾向を起す決して彼の免疫性とあることあたはず

其屍体を解剖して之れを検すれば最初は大腸の粘膜に加答兒を起す即ち粘膜は腫れ充血し稀れには出血あり之れを第一期となす第二期に於ての變化は充血減じ腸中の粘液は化膿し潰瘍を呈す第三期の至れば變化益々進みて腸壁は灰色を現し全期腐敗したるの觀あり若し潰瘍全快に赴かざるときは慢性の赤痢病となるべし

急性赤痢病の病毒感染期は三日乃至八日にして通常潜伏期を欠く稀れに之れあれば腹部に壓感ありて腹中鳴り食欲減退する位なり通例は急に惡寒を覺へ戰栗を發し頻りに便所に赴き下痢を起の裏急後重ありて左方下腹部に痛みを感ず大抵一日に十回乃至二十回甚しければ五十回乃至百回も便所に行き其都度多くは便下らす空しく外出すること多し大便は初めは水樣の便なれ共暫くして粘液を混し又粘液のみとなる而して後血液を含有し又膿を含むに至る故に其色は種々にして粘液狀或は化膿狀或は茶褐色或は純血狀なり舌は帶黃灰色の苔を以て被はれ食氣なく渇氣を增し尿量は減し不絶尿感を訴へ熱を發するとも發せざるともあり重症に陷ひれは譫語を發し舌は乾き脈搏は微小となる經過は種々にして常例一週より四週となす

慢性赤痢病は急性より變じ來り二三ヶ月も經續し大便は粘液化膿狀なり其併合症として來る疾病は關節の腫脹、音聲嘶啞、腹膜炎等なり

◎陰部洗滌法

此程大學の婦人科醫局に參りまして獨逸國より到

着しましたる雜誌を讀みました其中に記載せられてありましたものを飜譯致しまして次に御覧に入れます

獨逸國の首府伯林の醫師ストマスマン氏は婦人科の醫であります此人が婦人病療法の際陰部洗滌のことを論じました其中二三を摘録致しますれば健全なる生殖器を有しまする婦人の月經の時、交接の時又妊娠中などに陰部を洗滌致しますは敢て必要でありませぬ然しながら外陰部は平常洗滌を怠たりてはなりませぬ又淸潔を目的としまする洗滌は膣内に異物例へは子宮壓保器（子器の曲りを直はすために用ふる器械）を挿入れてあるとき或は月經の時にも行なひて害はありませぬ又温熱洗滌は攝氏四十度より四十五度位の温湯五六合の中に一握の食鹽又は其他の藥汁を混和し溶解して之れを用ふるとか宜しくあります又冷き洗滌は例外に用ひます即ち出血などありまするときに止血の目的に施こしまするのであります等なり

●電撃によりて氣絶したるものを蘇生せしむる實際の方法

ドクトル、ヲーガスチン、エッチ、ゴイレット

千八百九十五年七月二十七日發 エレクトリカル、ウオルドより

人若し電氣に觸れ其電撃（ショック）を受けて氣絶したるとき暫時之れを打捨置くか或は之れに蘇生せしむる手當を爲すも早く之れを止むるときは往々實に死亡するとあり故に此くの如き場合には最も速かに最も落付きて手當を爲すと肝要なり

從來屢々起りし電撃の有樣を視るに電撃は人体が瞬時電流の通過せる導体に不完全に觸れ電流の作用人体に及ぼす者なれは其作用は僅かに人体の活

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

動呼吸を一時中止するのみ然れども稀には導体に完全に觸れ充分の作用を受くることあり然し之れとても人体が一時全電路の技路となりて僅少の電流の人体に來るものあれば其作用も亦從て激しからず故に電擊を受けて氣絶するも適當の方法によりて之れを蘇生せしむることを得次に記載する方法即ち是れなり

第一、電擊を受けて倒れ氣絶したる人あれば先づ之れを接觸の電導体より離し電路より遠さけるべし之れを爲すには電氣不導体なる乾きたる棒にて其体を動かすべし若し乾きたる棒なければ

ゴムの手袋をはめるか或は乾きたる布にて手をのみ電流に觸れるを防ぎ之れにて其体を動かすべし体若し地面に觸れてあれは衣服の端或は体より遠ざかりたる衣服の部を捕へ体を電導体より安全に取離すことを得べし次に第二の方法を行ふべし

（以下次號）

大日本婦人衛生會記事

目下赤痢病は都下各處に流行蔓延し去月以降勢益々猖獗を極め殊に多摩郡の如きは其尤も甚だしきものにして日に幾十の患者を出すに至る本會は當時例に依り秋季懇親會を開くの豫定なりしも尚病勢蔓延の兆候あるを恐れ本年は休會することゝなし至急例會を開くことゝなせり是迄會場は略々華族會館に一定せしも以后は各區適宜の場所に於て開會し廣く會員外婦人にも傍聽を許すことゝなし先づ第一着として神田區は目下赤痢患者日に續出の折柄なれは玆に神田區役所樓上を會場に借受けんとて宮本仲氏には非常に斡旋の勞を取られ遂に市參事會及區長の認可を得愈々本會々場に貸與す可き旨神田澤區長より通報ありしを以て一般に此旨を通じたり然るに開會前一日に當り突然區長よ

り當日は急に差閊を生じ貸與することを得ずとの報に接せしを以て早急會場を神田一ツ橋外大日本敎育會樓上に定むることとなせり右の次第にして突然會場變更の事とて會員へ通知換の時日なく爲めに區役所へ參集迂回せられし方のありしは本會の萬謝する所あり

山根警察醫長には本會の此擧を賛せられて目下赤痢蔓延の折柄にもあれは會員は勿論會員外婦人の傍聽を可成多からしめんと必要なれはとて管内各小學校女敎師生徒幷に其父兄姉妹を始め高等女學校師範學校女子職業學校其他へ夫々通報紹介し尚新聞社には日本、明治、東京日々、讀賣、ジヤパンタイムス、やまと、あづま、萬朝報、東京中央、都新聞、中外商業、日本通信、帝國通信、東京朝日、時事、東京通信、報知、國民、毎日の各社に一般漏れなく通報を依托せられ是又非常に斡旋の勞を取られたり

開會當日(十月九日第二土曜日)は恰も天氣なごりなく打霽れ且又土曜日の事にしあれは正午過くる頃より女子職業學校を初めとして高等女學校小學女敎師及父兄及會員等續々參會せられたり會員席は特別に傍聽席と區別せしが愈々開會の頃に當りては來會者無慮四五百名の多きに達しさしもに廣き講堂も殆んど立錐の地なきに至りたり定時に至り醫學博士三浦守治君には人体組織の血球に就て詳細斬新なる説を述べられ續て宮本仲君には赤痢病の原因及豫防上に就て演説せられ是にて少時休憩をなし次に警察醫長醫學士山根正次君には府下豊多摩郡其他赤痢流行地實地巡視上に就ての狀況より該地方人の迷信及流行蔓延の理由より豫防上に說き及ぼし洒落快恬の辨を揮ふて熱心に演說せられ四時半頃一同散會せしが近頃の盛會ありき

因に記す當日は總會に當りしを以て會計報告事務報告をなさんとせしも會員外多數の事にもあれは當雜誌に於て詳細報告することゝなしたり

尚次會々場は順序を逐ひ日本橋區に於て開會の都合なれは會員諸氏は勿論御來會あらん事を冀望す

●新潟支會記事

新潟支會にては十月例會を師範學校女子部内に於

て開きたるに出席會員三十餘名にして水野氏高橋氏山元氏の三講師の講說あり散會せしは午後五時ありしと幹事澤田とも子より通報せられたり

廣告

自明治卅年三月至明治卅年八月半年度會計報告

收入之部

一金三百六十六圓〇八錢　總收入高

内譯

金二十八圓三十八錢　前年度越高

金三百三十七圓七十錢　會費集高

支出之部

一金三百五十五圓卅五錢八厘　總支出高

内譯

金百三十七圓七十錢　雜誌印刷料

金六圓八十六錢　諸印刷料

金十三圓五十錢　速記料

金二圓六十錢　切拔料

金三十圓　事務員給料

金六十六圓　雜誌編輯料

金六圓九十三錢　會場費

金三十一圓八十五錢　會費雜誌通知集配手當

金二十三圓五十九錢五厘　郵稅料

金六圓八十八錢八厘　筆墨紙料

金五圓九十錢　器具料

金十六圓五十九錢　雜費

六圓九十四錢五厘　總會入費

收支差引

一金十圓七十二錢二厘　殘金

銀行預金

一金三百五十圓　定期預

一金十圓〇五十錢　自明治三十年三月至明治三十年八月定期預利子

一金二十五圓七十一錢　當座預

現在會員數

會員總數　九百〇一人

内譯

府下修身會員　十六人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

地方修身會員　七人
府下特別會員　二十八人
地方特別會員　五人
府下贊成員　四十八人
地方贊成員　十八人
府下通常會員　五百十五人
地方通常會員　百〇七人
千葉新潟兩支會々員　百五十七人

內譯

修身會員　一人
贊成員　十五人
特別會員　六人
通常會員　百三十五人

●寄送雜誌　四十冊

◉入會者

●笠島索子の紹介に依り
朝鮮國京城贊化病院　古城貞子
神田駿河臺袋町東京產科婦人科病院　常世千代女子

●樋口八重子の紹介に依り
神田區鎌倉町十九番地　鈴木つる子
四谷須賀町四十番地　內田花子

●事務所へ申込に依り
本鄉區金助町秋間方　酒井とめ子

●木村いわこの紹介に依り　森もと子

◉移轉者

小石川大和町十一番地へ　林竹子
本所本所小泉町四番地へ　津田たま子
台灣台北砲兵工廠內へ　今村いと子
本鄉西片町十番地はノ十五號へ　南なか子
麻布三軒屋町五十番地へ　向山靜子
四谷大番町十九番地へ　石川さだ子
京橋築地三丁目十五番官舍へ　橋口きよ子
麴町虎の門內東京女學館內へ　宮川しな子
小石川原町三十四番地　穗積まつ子
麴町平河町五丁目五番地橫塚方へ　松本梅子
京橋弓町八番地へ　中濱芳子
下谷車坂町五十六番地へ　海老原つる子
麻布市兵衛町六番地へ　早田純子
京橋卅間堀一丁目石越病院內へ　鈴木清子
芝明船町八番地へ　中山ふさ子

大日本婦人衛生會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會規則

第一條　凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の康健を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會することを得

第四條　會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し
　但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條　本會々員を分て修身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす
　但件身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條　男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす尤も會費は本會員に同し
　但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身賛成會員無會費とすることも有る可し

第七條　本會に推戴員は置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條　本會は左の役員を置く　會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員二十名　書記若干名

第九條　會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰舉し書記は幹事の推撰により會長之を命ず
　但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る
　但幹事の分擔を設けて第一　會計　第二　編輯出版　第三　庶務とす

第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くことあるべし

第十二條　會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨なし

第十三條　會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條　本會の集會は七月八月を除くの外毎月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條　毎會學識經驗ある者を聘し講義演説を囑し本會々員の演説と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し毎月各冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす
　但し演説の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條　會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條　講義演説の際男子の傍聽を禁ず
　但し會員に緣故ある男子は此限にあらず

第十八條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日內務省許可

但些少の金額は日々の費用支出の爲め事務所に引出置を得

第十九條 會計の收支は總て會計課幹事の捺印を要す

第二十條 會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條 會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し

但不得止場合には郵便券を代用するも妨けなし尤も一割增とす

第廿二條 入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は保郵券二錢を添ふべし

第廿三條 每年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれは之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし否可半數なるときは會長之を決す

第廿四條 三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條 規則の範圍内に於て員役の評議を以て會細則を設くることを得

第廿六條 各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得

第廿七條 本會の集會場は時々報知する者とす

第廿八條 會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便券にて納むる者は右受領證遞送費として郵券二錢を添ふべし然らされは受領證は送付せざるものとす

廣く醫家又は病家の依賴に應し看護婦を派出せしむ

東京日本橋區濱町二丁目四番地

日本橋看護婦會

齒科診察

午前八時より
午後五時まで

東京日本橋區本町二丁目十二番地

齒科醫 高橋コウ

明治三十年十月十八日印刷
明治三十年十月二十日發行

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地 大日本私立婦人衛生會

編輯兼發行者 東京牛込區矢來町三番地 田中德三郎

印刷者 同 神田區小柳町十三番地 小高良造

印刷所 同 神田旅籠町貳丁目拾一番地 廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可每月二十日發行

（定價金拾錢）